議題：大田区立道塚小学校 令和５年度 第４回学校運営協議会
日時：2023 年 12 月 09 日（土曜）10:00-11:35
場所：道塚小学校１階　放課後子ども教室
出席：敬称略
（委員）
河合会長、横山委員、加藤委員、岩井委員、花島委員
鶴岡委員、多田委員、瀬尾委員、梨本委員、野﨑委員
安田委員、細川委員（記）
（学校）
大場校長、藤田副校長、先生方
（ゲスト）
・大田区議会議員　中坪さん、北村さん

議事内容：
◆会長挨拶
→大田区 地域福祉コーディネーターの住民懇談会に参加してきた
　→意見は大田区社会福祉協議会の５年計画へ反映できる
　→課題が複雑化していて一つの団体では解決しにくい問題も、ヘルプを出して欲しい、関連機関でどう対応していけるかを考える
　→委員のみなさんも関心もって見ていただければ良いと思います

（報告・協議事項）
修正後の議事録：

◆２学期の教育活動について
→道塚小学校の活動はホームページに学校日記/児童の様子として掲載している。具体的には、各クラスの学習内容や学校行事の様子、児童の作品などが掲載されており、週に一度の更新を目指しています。

【8 月】
→第３回学校運営協議会は、先生方の働き方改革、校内で出来る事について委員・先生方で熟議していただいた
→夏休み中は、水鉄砲大会、自治会の盆踊り、青少対の運動会など新型コロナ前に戻った
→体育館照明の変更、屋上の清掃など学校がきれいになった。傘立てもきれいになり子どもたちが片付けられるようになった

【9 月】
→モルモットの世話をしている、動物たちも戻ってきた
→学童側にカーテンを付けた西日対策、予算を計上している
→「早寝早起き週間」、６年生が考えてくれたレシピを流した
→卓球クラブに地域から先生が２人入ってくださった。コーチの方と子ども達とのニーズのすり合わせが必要と考えている
→１年生は研究授業で多摩川に虫とりにいった
→体育館で道塚幼稚園の鼓笛隊の演奏もできた

→5 年生の移動教室も行えた、来年は 5,6 年生ともに 2 泊になる
→区により業者が入り、校庭の釘を見つけ排除済み

【10 月】
→プロの声優に来ていただき、学芸会の前に話をしてもらった
→学芸会や全校での集会も復活した

【11 月】
→ 6 年生がやさしく、 1 年生と遊んでくれる、休み時間に 1 年生のクラスに行ってくれる
→区民活動施設 カムカム新蒲田のホールで、3 年生がお店屋さんごっこを行った
　→総合の授業を学校以外でやるのがはじめてのこと
　→保育園、幼稚園や地域の方々が来てくれた、学校外なので保護者が写真を撮れると喜んでいた
→開校 85 周年として校内全員で取組みたいことは、「地域の歴史(過去)と学校生活(現在)と未来に向けて」を考えたいと児童に話しをした
→今年も日本工学院とダンボールラボを行った
　→話題になり 3 月 11 日に MX テレビで放送してくれる
　→4 年生の授業と日本工学院、道塚自治会にもプレゼンした
→授業でのタブレットは必需品、1-6 年生が使える、授業がかわってきたと思う
→おーいお茶の俳句に児童の俳句がのった、いろいろな表彰を朝会で宣伝している
→11 月 15 日 区教研、いろいろ研修授業してくれた、どのクラスも落ち着いている
→学校公開の受付、PTA 役員がボランティアでいつも助けてくれている
　→ボランティアがあつまらないと学校評価をもらっている
　→運動会 6 時間、10 万円で業者発注できる（する）時代、PTA 活動に人があつまらない
→学校公開、認知症講座を 6 年生に行い「お年寄りにやさしくする」「大人にいう」等を学んだ
　→保護者も数十名参加してくれた
→大田区駅伝大会(12 月 16 日)があり練習している
　→保護者がコーチしてくれている、ゲストティーチャーの質を上げた
→通知表の時期だが、所見の欄を無くした。その代わり、個人面談を行うことにしました。面談は学期ごとに行い、児童の学習状況や生活態度について保護者と共有します。
【ものづくり】
→5 年生が工場見学に回った
　→スクサポで過去見学を受けれてくれた工場に依頼を行い、先生が最終アポをとった
　→工場見学の付き添いをボランティアで行った
　→工場見学受入れ後の評価を行った、内容として
　　→いきなり写真をと撮られて戸惑った
　　→子どもたちが来ることは癒される
　　→見学日時を事前に知らせて欲しいなど
　→工場見学を 5 年生で 3 年間やってきた、紙ベースで反省がでたのは今年の成果
→4 年生 下町ボブスレー
　→ボブスレーの選手が来校し話をしてくれた
　　→前方の操作する選手、後方のバランスをとる選手、それぞれ、命懸けでやっているし、得意を活かしてやっている

→子どもたちの感想
→みんなで力をあわせているのが印象的、
→ボブスレーがすごい、だれかの力になりたい、つないでいきたい
→働く大人の姿がすごい
→5,6 年生のミシンボランティア
→スクサポで、9-11 月の家庭科ミシンボランティアとしてみまもる大人を募集した
→前日でもいいから連絡、多くの方が参加し、参加した大人も楽しんでいた

（意見・議論）
→学校行事の受付だけでも、ボランティアを保護者ができないか
→先生は保護者に言いにくい、親どうしの方が良いと思う
→最近は、親どうしでやりたくない、業者委託したいという意見もある
→地域のニーズ、保護者のニーズが変わってきている
→用務の株式会社ネクサスはよくやってくれていると思う
→コミュニティスクール
→おおたの教育 1 月 1 日号に大田区の取り組みが掲載される
→大田区は「地域とともにある学校づくり」、全国的にも進められている
→新しい時代に変換していく、新しい時代を支えていく
→道塚小は昔から「地域・保護者で子ども達を育てる」をやってきた
→楽しみながら大人が子どもと関わりながら活動してきた
→コミュニティスクールになると主体でできることが増える
→夏のワクワクするスクール
→今年の夏は暑くて人が来づらかった
→夏が暑すぎて中止の枠が多かった
→カムカム新蒲田と連携しながら学校でないところでやる案も考えていく

◆学校評価について
→学校から令和 5 年度 自己評価報告書の評価内容を説明
→説明内容に特に質疑はなかった
→自己評価に対して学校運営協議会として次回協議会までに評価を行う

◆熟議として「不登校の児童生徒等への支援の充実について」
→について、ゲスト・委員で話し合い意見をもらう
→資料・説明は以下
→不登校生徒数、令和 4 年度 29 万人で過去最高、文科省として方針を出した「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」
→スクールタクト（授業支援クラウド）を 3 年間使ってきて継続的に使えると思っていたが使えなくなる
→スクールカウンセラー、中学校など連携しているが中々うまくいかない
→理由が個別的、親の話、メンタルの話等々
→誰もが安心して学べる環境づくりが必要
→部屋や人を用意してもニーズにあわないとこない
→日本教育新聞記事「不登校ゼロを維持、予防に力」

→今はゼロ、だけど結果でしかない
→予防のヒント
→子どもへの適切な行動を増やす（ポジティブな行動）
→不登校支援の教室（パレットルーム）
→大人に相談すれば解決することを学ぶ
→一方、一人ひとりのニーズにあわせると担任が大変になる

◆熟議・意見
→仕組みがあっても現実を見て対応できないと意味がない
→指導員がいても数を増やす、対応を良くするとかが必要と思う
→一人ひとりの居場所づくり・居場所を確保する、それには寄り添う方がいる
→家庭、学校、塾が子どもの居場所にならないと意味がない
→ニーズを汲み取って、道づくりする
→「人に相談すれば解決できることを学ぶ」とあったが大人が学ぶ必要がある
→子どもが大人を信頼していない、大人に余裕がないからか
→大人が余裕をもって対応できるようにする
→学童クラブは居場所の一つ、大田区は公設民営なので協定を結ぶなど仕組み作りが必要
→主任児童委員の増員、実態に合せて活動しやすいように
→どの子も活躍できるよう授業改善を今後も
→道塚小はいい学校だと思う、学校なりのやり方があるはず
→親によりそうことは必要
→昔は良い学校・良い会社に入る、今は子ども達の将来の目的・欲望がない
→親が何を伝えて良いか、どれを選択していいか分からないぐらい豊かになった
→学校にいきたいという要素が無い限り行かない、例えば、遊びだけの日があってもいいのではないか
→学校に何故行きたくないか
→子どもの心のケアが必要
→学校へ行きたくない理由があるけど、一つでも行きたい理由があれば良いのではないか
→例えば、支援委員の誰かに会えるだけでも楽しいだけでも良い
→学校=勉強なら、勉強だけなら家でもできると思う子もいる
→不登校には、さまざまな理由があると思う
→何もやっていない学校・先生はいない、でも、この状況がある
→家庭・地域・学校で支えていることを情報発信する、家庭に届ける必要がある
→幼稚園では３年間で、親以外を信用する、心が折れても立ち直る力を心掛けている
→通えないことは悪いことではない
→どこかで行きたいと思うときがあれば、受け入れるクラスの雰囲気づくりは大事
→不登校という言葉がネガティブなイメージを与えている
→それぞれの理由がある、先生が学校に来るように勧めるのは難しい
→毎日学校行かなくても良い社会的雰囲気が作れないか
→「学校に行くことが大事」的な考えから大人が変える必要がある
→「先生に学校に来いと言われる」「何故、学校に来させたがるのか？」
→親にも子どもにも理由が見えない
→理由がなければ学校に居場所があってもいかない、居場所は自分で見つける・作るもの

　→「絶対に学校に行かないといけない」という概念が問題と思う
→子ども達の失敗、成功体験させたいとは思っているが、失敗を受け入れられない子どももいる
　→担任の観点として「いろいろな子どもがいる」
　→教室を居心地の良い環境にするとしても多様化しているので全員どうか難しい
→失敗体験を世の中が恐れている風潮がある
　→SNS 上では幸せそうなのに実態は困った状態だったりする
　→自分から困ったら言える環境にする
　　→行政・学校に頼る前に友人・家族に頼れば良いのに、身近は恥ずかしい？
　→小学校を失敗する場所、失敗を受け止める場所にする
　→不登校は「学校に行かない選択をした」というような土壌づくりが必要
→不登校の問題は、予防とケアの両輪であり正解は無いと思う
　→不登校になると親から相談がある、「なぜそうなったか？」
　→不登校になった理由も同じ、コミュニケーションが大事
→楽しい場所をつくるのは自分であり、小学校から大人に向けて楽しい場所をつくる訓練をしていく
→例として不登校の子を児童館に通わせ、学校行けそうな時は学校に連携した
　→新たな仕組み・施設もあるが、まずは今あるのでやっていくことが大事
→人間は、一人では生きていけない、それぞれの生き方をそれぞれ認め合うことが必要
　→不登校の親と面談すると「学校に話をしても両親にすると改善されない」、切ない気持ちになる
→いろいろな立場からいろいろな考え・意見があって良い
　→考えていただければ良く、出来るところから出来れば良いと思う

◆その他、連絡事項
→教育研究発表会の案内
→令和 5 年度 学校運営協議会も残り 2 回
　→1 月　令和 6 年度の教育の計画
　→3 月　令和 6 年度の活動案（3 年目の区切り・見直し）

◆アクションアイテム
→自己評価に対する学校運営協議会委員として各自評価を実施
　→期限：2023 年 12 月 21 日（木曜）
　→方法：Google フォーム（別途連絡）もしくは紙での提出

以上